

広島大学 WWL (ワールド・ワイド・ラーニング) オンラインセミナーに参加しました

## 「焼畑は環境を破壊するのか？—グローバルスケールでの森林破壊とローカルスケールでの人々の生活から環境問題を考える—」

講師：名古屋大学大学院 環境学研究科 教授 横山 智 先生

9月30日(金) 15:30~16:20の日程で、上記のオンラインセミナーが開催されました。小倉高校は2学期中間考査の期間と重なり、参加した生徒は1名でしたが、愛知、広島、愛媛など他県の高校生と一緒に、焼畑の現状や森林破壊の問題について積極的に学びました。

森林伐採は、生物多様性の減少や、地球温暖化の原因の一つとして一般に認識されていますが、果たして、熱帯・亜熱帯地域の途上国で昔から営まれている「焼畑」は、環境を破壊するのでしょうか？この問いをもとに、講師の横山先生より、東南アジアの国、ラオスの人々の実践を事例として取り上げていただき、世界的な森林保護の機運と現地の人々の生活との関係について、わかりやすくお話いただきました。また、お話の後、本校生徒を含めた複数の高校生から寄せられた質問にも丁寧に回答いただき、充実したセミナーとなりました。

### 参加した本校生徒の振り返りより

「焼畑は悪いことだけではないと初めて知った。世界の問題を考えるときに、先進国だけの視点にとらわれてはいけない。地域多様性を大切にして、焼畑の特徴や理論をよく理解する必要がある。日本だけでなく、世界のこのような伝統を守れる人になりたい。」



セミナーの様子（本校 視聴覚教室にて）

### 「焼畑（やきはた）」とは？

焼畑農耕とは、熱帯および温帯の森林、原野において、樹林あるいは叢林を伐採・火入れして耕地を造成し、1年ないし数年の短い期間、作物の栽培を行ったのち、耕作を放棄し、通常は一定の休閑期間を経て植生の回復するのを待ち、再度その土地を利用する農耕である。かつてFAO(国連食糧農業機関)が発表したところによると、今日地球上で、焼畑に利用されている空間は休閑地も含めると約3600万km<sup>2</sup>、2億余の人口がそれに依存して生活しているという。

(出典 平凡社 世界大百科事典)